

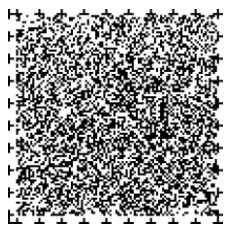
一つのいのち

小 三

わたしのお母さんのおなかには、小さな小さな命が育っています。わたしがお母さんのおなかにいた時も、とっても小さな命だったそうです。お母さんに、おなかの中の命の大きさを教えてもらったなら、ピーナッツくらいと分かり、びっくりしました。

一か月、二か月、三か月がたったころ、わたしはお母さんと妹といっしょに病院に行つて、エコー写真を見ました。お医者さんが、「ここが心ぞうだよ。」と教えてくれました。その時、わたしは、うれしくて、自ぜんとえ顔になりました。

家に帰ってからお母さんに、わたしがおなかにいた時のエコー写



真を見せてもらいました。その時もうれしくて、自ぜんとえ顔ができてきました。

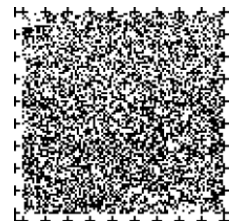
命ってすごいな、生きてるってすごいな、と感じたからです。

妹もお母さんのおなかの中に赤ちゃんができて、よろこんでいます。いつもお母さんのおなかをさわったり耳を当てたりして、

「プチプチ、聞こえたよ。」

とうれしそうに、わたしやお母さんに教えてくれます。エコー写真の心ぞうの形。自分のむねに手を当てて感じた心ぞうの音。どんどん大きくなっていくお母さんのおなか。おなかに手を当てて赤ちゃんが動くのを感じたり、耳を当てて、「ポコポコ、パチパチ」という音を聞いたりしていくうちに、わたしには「命」が見えるような気がしてきました。

お父さんは、仕事でいそがしいけれど、帰ってくるとおなかに話しかけたり、さすったりしています。お休みの日にはおなかの音も聞いています。赤ちゃんが生まれてきたら、小さな命を家ぞくみんなで大切にしようね、と話



しています。

わたしが、いつか大人になって、おなかに赤ちゃんができたとしたら、きっと自分以外の命を感じられると思います。そして、生まれてきた子もわたしと同じ気持ちになるように、命の大切さを教えてあげたいと思います。

